

魚類

魚類は 11 科 24 種を確認した。

市内には都幾川、越辺川、市野川、滑川の河川と、その支川となる小水路、多くの溜池などがある。魚種は川によって生息種に違いがあり、川と溜池でも生息種に違いが見られる。河川にはオイカワ（通称ハヤ、ヤマベ）が優占種であり、溜池などの止水域ではモツゴ（通称クチボソ）、ギンプナ（通称フナ）が優占種であった。市内の河川は水が一番澄んでいるのは都幾川で、越辺川、市野川、滑川と続く。都幾川ではオイカワが現在でも優占しているが、1990 年頃と比較すると魚類の個体数は激減していて、見かけの推定では 10 分の 1 以下になっている。個体数の減少も大きい、生息種の変化も大きく、上唐子から元宿までの流域には、50 年も前の 1970 年代以前にはオイカワが優占していたが、ウグイも多く、現在は絶滅危惧種になっているスナヤツメも普通に見られた。この時代にはアユは放流もされ、ギンプナやギバチなども多く生息していた。ただし、コイやニゴイ（通称バカサイ）は居なかった。その後、ニゴイが 1980 年代になると多く見られるようになった。しかし、現在 2016 年ではニゴイは都幾川には少数しか見られず、大きなコイが見られる。都幾川では以前は釣りや投網による漁獲が行われていたが、現在は釣り人も少なく、投網漁を行う人もほとんどいない。越辺川は下流部の一部が坂戸市との境界流域になるが、越辺川も都幾川と同じような魚種が見られる。

市野川は滑川と比べると水の透明度は高いが、都幾川には及ばない。1960 年代の市野川にはギンプナ、ギバチ、スナヤツメ、ツチフキ、オイカワ、ヤリタナゴ、タイリクバラタナゴなどが分布していた都幾川との差違は砂礫底を好むウグイがほとんど見られず、ツチフキやタイリクバラタナゴなど少し泥底を好むような魚種がいる。ただし、現在ではツチフキはいなくなり、タナゴ類もほとんどいなくなった。滑川は吉見百穴前で市野川と合流する。市野川より少し濁りのある水で透明度は低い。現在は大きなコイが見られるが、以前も今も市野川と同じような魚種が見られる。この他にも川に流れ込む小さな堀では、ホトケドジョウがいたが、市内での過去の生息地にはいなくなり、現在の市内に生息しているのか分からない（P70 表）。なおこの種分類は、旧分類に従っていて、最新のものではない。

調査での出現種				
群No	分類群	科名	種名	
1	魚類	ギギ科	ギバチ	
2		キュウリウオ科	アユ	
3		コイ科	アブラハヤ	
4			ウグイ	
5			オイカワ	
6			ヌマムツ	
7			キンブナ	
8			ギンブナ	
9			ゲンゴロウブナ	
10			コイ	
11			タイリクバラタナゴ	
12			タモロコ	



オイカワ（雄）

コイ科 オイカワ

市内の河川、都幾川、越辺川、市野川、滑川で優占する種で、ハヤ、ヤマベなどと地元では呼ばれている。夏には瀬に集合して産卵をする。写真左側は婚姻色をもった雄で、右側は雌で全体銀色である。

調査での出現種			
群No	分類群	科名	種名
13	魚類	コイ科	ニゴイ
14			モツゴ
15		タイワンドジョウ科	カムルチー
16		ドジョウ科	ヒガシシマドジョウ
17			ドジョウ
18		ナマズ科	マナマズ
19		バス科	オオクチバス
20			ブルーギル
21		ハゼ科	カマツカ
22			ジュズカケハゼ類 sp
23		メダカ科	メダカ
24		ヨシノボリ科	ヨシノボリ属 sp



オイカワ（雌）



ギンブナ

コイ科 ギンブナ

子供の頃から、慣れ親しんだ魚である。数種が国内にいるが、市内ではフナの種類にはギンブナ、キンブナ（この2種は通称マブナと呼ばれる）、ゲンゴロウブナ（通称ヘラブナ）など3種が生息している。生息場所は川や沼などだが、近年はオオクチバス（通称ブラックバス）やブルーギルなど外来魚の放流によって数が減り、止水である沼などでは全滅してしまったところもある。

魚類



コイ

コイ科 コイ

かなり昔に大陸から入った外来魚であるが、釣りの対象として親しまれてきた。以前には大きな個体はすぐに釣り人に獲られて、すぐに居なくなったが、最近では都幾川、越辺川、市野川、滑川などには60cmくらいの大きな個体が残り、春には産卵が頻繁にみられるようになった。写真の個体も、春の産卵からの幼魚である。口の下側に短いヒゲがあり、フナ類との形態的な違いが、識別ポイントになっている。



モツゴ



タモロコ

コイ科 モツゴ

沼などで一番親しんだ魚で、クチボソと呼ばれていた。釣りをしていると盛んに餌を持っていくのだが、口は小さく、餌を呑み込まないので、なかなか釣れない。ところが、最近では沼にはほとんど居なくなってしまっている。バスやブルーギルの食害で姿が消えてしまった。今では流のある市野川などでは生息しているが、昔のようにごく普通の種ではなく、珍しい部類になっている。

コイ科 タモロコ

流の緩い川や小水路にも生息する。地元では身体の中央を横にはしる側線の模様から、スギツパヤと呼ばれていた。成魚になっても10cmを超えないような小魚である。



ヌママツ

コイ科 ヌママツ

1970年代にいきなり現れた。関西系の魚で、アユの放流と共に関東にも分布を広げた。

カワムツB型と呼ばれていたが、最近になって緩い流れや堀など住むこの種をヌママツとされ、関西の流のある川に住むカワムツと別種として区別するようになっている。繁殖期には口元にザラザラの突起、追星が出て、体色も赤いストライプが入り変わる。最大でも20cm程度の大きさ。



タイリクバラタナゴ (雌)

タナゴ科 タイリクバラタナゴ

外来種であるが、50年も前から市野川や滑川、あるいは小水路、溜池などの少し濁った流れの緩い場所で見られた。個体数も多く、地元ではタナゴ、アカンベタなどと呼んでいた。雄の体表は虹色のように見える。流れのある都幾川などでは少なかった。



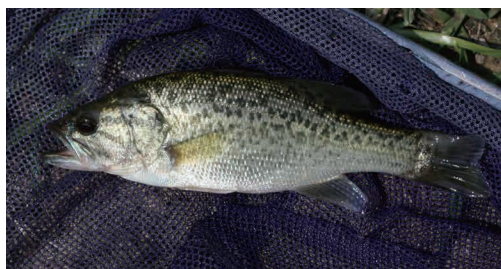
メダカ (雄)



メダカ (雌)

メダカ科 メダカ

在来の種で、最近では個体数が減少し、環境省から絶滅危惧種に指定されている。都幾川の本流にはほとんど居ないが、水田や小さな川や水路には生息している。雌雄の違いは写真のように背びれや尻びれに顕著に表れる。



オオクチバス



オオクチバス

バス科 オオクチバス

近年、人為放流によって沼や池に多く生息している。他の魚を捕食するので、この魚や同じ外来種のブルーギルが入り込むと数年で在来魚は絶滅してしまう。また魚類だけでなく、エビ類や水生昆虫類も捕食するので、生態系に非常に深刻な影響を及ぼす。環境省から特定外来種に指定され、人為放流や移動が禁止されている。



ブルーギル



カジカ

バス科 ブルーギル

この外来魚も近年、人為放流によって池や沼に多数が生息し、環境省から特定外来種に指定されている。背の高い平たい魚で10数cmになる。他種の卵を食べ、昔からいる在来魚に深刻な影響を与えている。ある池で釣りをしてみたが、すぐに釣れ、針を吞んでしまう。よほど空腹なのだろう。池には以前はスジエビやヨシノボリが見えたが、まったく居なくなっている。チョウトンボもコシアキトンボなどのトンボ類も見えない。大きな池だが、食べ尽くされているようだった。

カジカ科 カジカ

きれいな水に棲み、50年前には高坂鉄橋下にもいた。子供の頃は魚獲りに行っても、この魚だけが動かないので、鉈で突くことができる唯一の魚であった。写真の個体は唐子の都幾川で2017年8月に捕えたが、増水したので下ってきたようだ。20年前にした調査では都幾川町の本郷付近から上流には生息していた。



トウヨシノボリ

ハゼ科 トウヨシノボリ

現在はヨシノボリ属 sp とされる。川や池、沼などに生息する。小さな堀などにも幼魚が多数生息している。地元ではダブッカと呼ばれている。成魚で6 cm 程度にしかならない。



ジュズカケハゼ

ハゼ科 ジュズカケハゼ

都幾川に生息しているのを確認した。数十年前にはいなかったが、都幾川ではヨシノボリ類よりも個体数は多い。岸近くに棲んでいるので、静かにしていれば観察できる。



カムルチー

タイワンドジョウ科 カムルチー

ライギョと呼ばれ、60cm にもなる大型の魚で、カエルや他の魚を捕食する。藻を集めて巣を作り、親は卵を守り、孵化後は幼魚を守る。以前は市野川などの旧川にもいたが、オオクチバスなどに駆逐されたのか、藻のあるような川では見られるものの、池や沼では見られなくなった。

表 市内の3河川での魚類生息種の変遷

群 No	科	種名	都幾川		
			60～70年	90年代	03～17年
1	ウナギ科	ニホンウナギ	○	?	?
2	ギギ科	ギバチ	○	○	○
3	キュウリウオ科	アユ	○	○	○
4	コイ科	アブラハヤ	×	○	○
5		ウグイ	○	○	×
6		オイカワ	○	○	○
7		ヌマムツ	×	○	?
8		キンブナ	?	?	?
9		ギンブナ	○	○	○
10		ゲンゴロウブナ	?	?	×
11		コイ	?	○	○
12		タイリクバラタナゴ	○	×	×
13		タモロコ	○	○	○
14		ニゴイ	×	○	×
15		モツゴ	○	○	○
16		ヤリタナゴ	×	×	×
17		ヒガイ類 sp	?	×	○
18	タイワンドジョウ科	カムルチー	○	○	?
19	ドジョウ科	ヒガシマドジョウ	○	○	○
20		ドジョウ	○	○	○
21	ナマズ科	ナマズ	○	○	?
22	バス科	オオクチバス	×	×	○
23		ブルーギル	×	×	○
24	カジカ科	カジカ	○	?	○
25	ハゼ科	カマツカ	○	○	○
26		ヨシノボリ属 sp	○	○	○
27		ジュズカケハゼ類 sp	×	○	?
28		ツチフキ	×	×	×
29	メダカ科	メダカ	×	×	×
30	ヤツメウナギ科	スナヤツメ類 sp	○	△	×

凡例 ○・・・生息確認 △・・・少し上流での確認 ?・・・生息していた可能性有り ×・・・生息確認なし

市野川			滑川		
60～70年	90年代	03～17年	60～70年	90年代	03～17年
○	?	?	○	?	?
○	○	×	○	?	×
×	×	×	×	×	×
×	×	×	×	×	×
×	×	×	×	×	×
○	○	○	○	○	○
×	○	○	×	×	○
○	○	?	○	○	○
○	○	○	○	○	○
×	?	○	○	×	×
×	○	○	×	○	×
○	○	×	○	○	×
○	○	○	○	○	×
×	○	○	×	×	○
○	○	○	○	○	○
○	○	×	○	○	○
○	○	×	○	○	○
○	○	×	○	○	○
○	○	×	○	○	○
○	○	×	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
×	○	○	×	○	○
×	○	×	×	?	○
×	×	×	×	×	×
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
×	×	×	×	×	×
○	×	×	○	○	×
○	○	○	○	○	○
○	×	×	×	×	×

魚類



ナマズ

ナマズ科 ナマズ

泥のある水底を好む。市内の河川に生息しているが、市野川や滑川では何度も目撃した。個体数は多くはないが、40cmもある個体が浅い場所で静かにしているのを見た。以前には市野川の支流の新江川にも多数の個体があった。今はどうなんだろう？。最近の確認できない。



ドジョウ

ドジョウ科 ドジョウ

川や溜池に棲んでいるが、夏には水田に入り繁殖する。今でも小さな水路などでも見られるが、大きな川や沼には少ない。大きいものでは20cm近くに達する。皮膚呼吸もするので、体表が濡れていれば、水から出てもしばらくは元気である。



ヒガシシマドジョウ

ドジョウ科 ヒガシシマドジョウ

最近までシマドジョウと呼ばれていたが、東日本と西日本に生息する個体は別種に分けられた。水の澄んだ川に生息する。都幾川ではよく見られ、市野川にも生息する。